

2021/10/7-2

(うと Q 世話し+オマケの英語教室 我々の「困った」気質)

冒頭まずは昨日の記事に關しまして

昨日の記事「オマケの英語教室 To be, or not to be. That`s the question」は文章中に英語があると云う事で余り考えもせず「オマケの英語教室」の方に掲載致しましたが、よく考えてみれば内容は明らかに「うと Q 世話し」ネタだった事に思い当たり上記題名を「うと Q 世話し+オマケの英語教室 To be, or not to be. That`s the question」と改題したものを「うと Q 世話し」の方にも掲載する事に致しました。

又、昨日の記事本文に現出の

To be, or not to be. That`s the question

の邦訳が

「生きるべきか、死ぬべきか。それが問題だ」

であるのは誤訳ではないかと書きましたが、自分が上記邦訳から逆算して英訳するとすれば上記邦文は

To live, or to die. That`s the problem.

となります。

因みに to+動詞が文頭に出てくる場合は「～する事は」とか「～すべきは」という訳が一般的で動名詞でも済む処をこの形式にする事で格調を持たせたり強調効果を上げたりする場合によく使われます。

例えば

Loving is living

でもいいのですが

To love is to live. (愛する事は生きる事である)

とか。

又 problem (問題) と question (疑問) は全く別の事柄です。

After holding a question, it turned (changed) to a problem, I felt.

(疑問を抱いた後、それが問題に変わるのを感じた)

とすればお分かり戴けるかと思えます。

前置きが長くなりました。

ではここから本日のお題。

昨日の記事の中で我々日本人の気質について少し触れましたがその続きです。

自らを省みるに、どうも我々日本人は様式美や想定の籐(たが)に縛られ易い傾向がある様な気がします。

時にはそれが悪さをして事実認識を誤らせるケースを何回か体験しました。

事実より期待値を優先してしまうせいです。

云ってみれば美味しい事だけを言って請け合い大衆を誘導する「ポピュリズム」に嵌まり易

い自らの体質とでも申しましょうか。

こう書くと話が少しややこしくなってくるので今少し卑近な例でご説明致しますと、
テレビ番組中の「やらせ」

の例です。

一時此れ等は某国営放送、民放に限らず叩かれましたが、この「やらせ」を「演出」という言葉に置き換えてみますと実はテレビ番組というのは「やらせ」の塊みたいなものだと云う事が分かってきました。

「この方が視聴者に分かり易いですから」

とか

「この方が見栄えがしますからこのポーズで」

とか。

此れ等は「やらせ」とは云わず「演出」と云っている事は既に申し上げましたが要するに事実伝達よりも「見栄え」や「受け」狙い優先であると云う事に違いはありません。

「視聴者に分かり易くする為」はその実「視聴者の想定内に収める」為や「視聴者の期待値に応える」為の置き換えやすり替えでしか在りません。

無論是はテレビ局も悪いのですが、過度の様式美や想定内の籐（たが）を抱きすぎ、一方的な期待値の実現ばかりを求める我々にも原因があるような気がします。

自分を含めて「我々の困った気質」の様な気がしております。